

(2) 自動車関連産業を中心とした経済交流の拡大

■ 計画

- ・ 山形県は東北有数の「ものづくり県」であり、技術力も高い水準にあり、自動車関連企業や関連技術を有する企業も多数存在し、平成25年3月に実施した企業アンケートにおいても中京圏との商談等のビジネス交流は拡大傾向にあるなど、自動車関連産業への新規参入や取引拡大が期待されている。
- ・ とくに自動車関連産業については、トヨタが平成24年にトヨタ東日本を設立し部品の現地調達を進める方針であるが、商談や品質管理等については引き続き中京圏の一次サプライヤーが行う場合も多く、中京圏との交流拡大が見込まれている。
- ・ 県では県内約270社からなる「自動車産業振興会議」を中心に、技術力・生産管理能力の向上や人材育成、中京圏における展示商談会の開催など、取引拡大を目指した取組みを進めている。
- ・ こうした、自動車関連産業を中心とする県内企業の中京圏との取引拡大等は、山形～名古屋便の利用増に大きく寄与するものと見込まれる。

■ 実施状況

① 商談会出展、個別商談等に対する支援

- 自動車関連産業を中心とする経済交流を拡大するため、「山形県自動車産業振興会議」を含む「とうほく自動車産業集積連携会議」会員企業が行う中京圏サプライヤー等との商談、愛知県において実施される商談会への出展、企業・工場見学等における山形＝名古屋便利用に対する運賃等助成を実施。
- 1日1便運航のため前泊・後泊等が必要であり、三菱自動車商談会（平成26年10月16日～17日、愛知県岡崎市）においては、本県から10社が出展し約50名が山形～愛知県を往来したが、1便運航で前泊・後泊が必要となるため山形＝名古屋便の利用なし、トヨタ自動車商談会（平成27年2月5日～6日、愛知県刈谷市）については、1社、4人の利用実績となった。

② 経済交流・航空PRミッション団の派遣、山形空港キャラバンの実施

- 平成27年2月4日、県及び山形空港利用拡大推進協議会による経済交流・航空PRのための愛知県訪問を実施。それぞれの訪問先において、観光はもとより、ビジネス利用等についても連携して利用拡大を図っていくことを確認。愛知副知事との面談においては、今後両県の広報誌等において相互PRを実施することを確認した。
- 平成28年11月28日～29日、県及び山形空港利用拡大推進協議会によるキャラバンを実施。県は商工労働関係部が中心となり、名古屋商工会議所や名古屋市内の経済新聞社等を訪問し、2便化により日帰りが可能となった名古屋便のビジネス利用をPRした。キャラバンの成果として、訪問先の1つである東海テレビが、山形＝名古屋便の紹介番組を制作し、平成29年1月27日に放映された。

③ 山形空港サポーターズクラブ会員に対する助成による運賃割引の実施

- 平成27年9月から、キャッシュバック型の助成金は、旅費精算上使いにくいという企業からの意見が多かったため、サポーターズクラブ会員限定で助成金額を差し引いた価格で購入できる制度をFDAと連携して構築した。（H27.9月～1月

実施)

- 平成 28 年夏ダイヤから 2 便運航となり、名古屋からは日帰りも可能となったことから、ビジネス利用の促進を図るため、平成 28 年 5 月からサポーターズクラブ会員限定で、前年度構築した助成金額を割引いた価格で購入するスキームにより助成を実施した。

④ 山形空港サポーターズクラブの P R 強化

- 山形空港サポーターズクラブを運営し、会員登録いただいた企業・個人に対し各種特典を提供するとともに、山形空港に関する各種情報を掲載した「山形空港サポーターズクラブ通信」を会員向けに毎月発行することにより、空港に関する情報をタイムリーに発信し利用を促した。
- 県営名古屋空港協議会の事務局である名古屋商工会議所(会員数 15,000 事業所)、同協議会会員である小牧商工会議所(同 3,600 事業所)、春日井商工会議所(同 4,800 事業所)の協力を得て、平成 27 年度は 5 月及び 10 月、平成 28 年度は 6 月と 12 月に各会員企業に対し「山形空港サポーターズクラブ」の入会や会員限定の助成による割引運賃のチラシを会報誌に折り込んでもらい P R を行った。特に 2 便運航以降に行った折込みに反応し、サポーターズクラブへの中京圏の企業会員の入会が増加した。
- 愛知県内発行の経済新聞、経済誌へのサポーターズクラブ等の広告掲載を実施した(H28.6.22 産経新聞、H28.7.25 フジサンケイビジネスアイ、H28.11.20 毎日新聞)